

## 2008年度合宿セミナーについて

前回、前々回の合宿セミナーは、レーザーの発展に刺激されて発展しつつある近接分野を話題に上げましたが、今回は本研究会単独のセミナーを開催することになりました。最近の学術諸分野の発展を見ると、近接領域との交流による刺激が新たな発展の刺激を与えているのは明らかな傾向ですが、一方で常にその領域の更なる発展がなければ、その後の大きな飛躍も期待できません。

レーザー科学における超短パルス・高出力レーザーの発展の歴史を振り返ると、ナノ秒領域に始まって、ピコ秒領域を経てフェムト秒領域へと、それぞれの段階を越える困難を克服した結果新しい技術が生まれ、その応用によって新しい物理学領域とその応用分野が展開されてきました。そしていまやアト秒領域の技術と科学を展開する努力が実を結びつつあります。

今後サブ・フェムト秒からアト秒領域の超高強度光パルスをどのようにして発生するか、その特性と物質との相互作用の特徴は如何なるものであるかを我々が突き詰めて、新しい領域を開拓して行かなければ、隣接分野や応用分野を含めた更なる発展は望めないと思います。

今回のセミナーは、サブ・フェムト秒～アト秒領域の発生技術、その特性、その物質との相互作用の特徴とは何か、それが今後の学術にどのような展開を与え得るかを、最前線の成果を礎に検討し、今後どのように展開していくかを共に考える機会にしたいと思います。

したがって、話題を提供して下さる方々は、単なる最近の成果の紹介でなく、今後どのような展開があるかをお互いに探るための話題提供とお考えいただければ幸いです。参加者の方々も、単にこの分野の展開の最新の情報を知るだけでなく、出席者全員で今後この魅力的な分野を如何に展開して行くかを探る作業への取り組みという意気込みでのご参加を期待しております。

また、皆様もご存知のとおり、今回この分野の日本における開祖でいらっしゃる霜田光一先生が文化功労者として表彰されました。この分野の重要性が認知された一つの表れでもあり、我々すべての大きな喜びであります。先生には、このセミナーにも毎回ご出席戴き、活発なご質問やコメントなどで出席者を刺激して下さっておられますが、この機会に特別講演によって我々の今後の発展を更に刺激して下さる事をお願いし、「光パルスの粒子性と波動性」という表題でお話を戴ける事をご快諾下さったことを申し添えたいと思います。では、セミナーの会場で御目にかかりましょう。

応用物理学会 量子エレクトロニクス研究会  
委員長 宅間宏